

くるま旅

Kuruma Tabi

FREE MAGAZINE 2017 vol. 13

ENJOY!

CAMPING CAR LIFE



キャンピングカーライフ
を満喫しているユーザーの
遊び方 楽しみ方

キャンピングカーライフ を満喫しているユーザーの 遊び方 楽しみ方

enjoy!
Campingcar
life

キャブコンの機動性を生かして 夫婦で日本全国「くるま旅」。

CASE. 1 夫婦×キャブコン 原田 勇さん/亮子さん



学生時代、自転車北海道の宗谷岬をはじめとする日本中を旅していた原田さん。旅のツールとして、バンコン、欧州モーターホーム、国産キャブコン2台を乗り継いできたキャンピングカー歴20年以上のベテランオーナーだ。

現在は、2.8kWのリモート式発電機を搭載したキャブコンに乗っているが、キャンピングカーと旅のベテランだけあって、その遊び方は実に豪快！ 原田さんが昔から一番好きな場所である北海道の「春夏秋冬すべてを味わいたい」と、気候のいい春～秋だけでなく厳冬期の2月にキャブコンで本州から北海道に上陸。スタッドレス履きの4WD車で、1カ月かけて北海道をほぼ1周してきた。宗谷岬の雪景色を堪能したり、知床で流水ウォークを体験したり、然別湖で世界唯一の氷上露天風呂に浸かったり、糠平湖やオンネトーをスノーシューで散策したり……、本州では見られない景色を思う存分味わってきたそうだ。

そうした旅を実現できたのも、キャンピングカーがあってこそ。然別湖では氷点下23℃の極寒の中で車中泊を経験したが、FF

ヒーターで車内は常に20℃をキープ。FFヒーターを消すと給排水パイプ内の水が凍るほどの寒さだったが、まったくストレスのない快適な旅ができたという。

「有名な観光地はほとんど行かない」という原田さんは、1年を通して全国の海、山、川を訪れて、自然の中でアクティブに遊び倒している。なかでも、とくに好きなアウトドアアクティビティがカヤック。フジタカヌーのファルトボートをキャブコンに積み込み、これまで関東近郊の湖から北海道の朱鞠内湖・支笏湖・屈斜路湖、岩手の岩洞湖、鹿児島島の池田湖などでパドリングを経験。北海道や四国で川下りをしたり、北海道や西伊豆でシーカヤックをしたりと、さまざまな場所で季節ごとに変わる景色を水上から楽しんできた。

そんな原田さんのワイルドさに負けず劣らず、奥さまの亮子さんにも実にパワフル！ 原田夫妻のくるま旅は3食自炊が基本で、もちろん炊事はすべて車内のキッチンで行っている。そのため、現在のキャブコンを購入する際も、亮子さんがキッチンをしっかりチェックして「実際に使えるサイズのキ

ッチン」を備えたモデルを選んだという。「出かけた先の市場やスーパーで手に入れた食材を、その場で調理して食べられるのがキャンピングカーのいいところですね。山菜を採って車内で天ぷらにしたりもしますし、地元で魚を買ってキャンプ場で干物にしたこともあります」。奥さまの亮子さんは、キャンピングカーのキッチンで大きな魚をさばくのもお手の物。これまでに、地元の市場で手に入れたアンコウや寒ブリ、白子がたっぷり入った7kgの真鱈、10kgのカツオなどを車内のキッチンでさばいた経験があるというから驚きだ。

定番の観光地を巡る旅ではなく、カヤックやスノーシューなどを使い自らの五感でその土地の魅力を味わうのが原田さん流。さらに、その土地の美味しい食べ物を現地ですぐに手に入れ、車内のキッチンで調理してその場で美味しくいただく。キャンピングカーをツールとして使い倒し、日本中をアクティブに駆け回る原田さん夫妻。惚れ惚れするほど豪快で魅力的な2人のキャンピングカーライフは、これからも末永く続いていくことだろう。



基本は3食自炊。 車内で大きな魚をおろすことも！

旅の食事は3食自炊が基本。行く先々で新鮮な食材を手に入れ、車内で調理して食べるのが楽しみのひとつだ。時には、市場で調達した寒ブリやアンコウ、カツオなどの大型魚を車内のキッチンでさばいて食べることも！



キャンピングカーで**厳冬期**の北海道へ！

2月に北海道に渡り、道内をほぼ一周。マイナス20℃以下の極寒でもキャンピングカーがあれば快適に生活できたという。あまりの寒さに、走行中ホイールのセンターキャップからツララが伸びてウニのような状態になってしまった。



カヤックで陸からは眺められない 景色を楽しむ！

積載力のあるキャンピングカーならカヤックの運搬もラクラク。北海道・雄冬でシーカヤックをしたり、十和田湖で水上から美しい紅葉を眺めたりと、各地でカヤックを楽しんでいる。



明日はハイキングへ

美味しいモノがある所が良いわね！



キャンピングカーの旅が 家族の絆を深める！

CASE. 2 ファミリー＋愛犬×キャブコン

井上 守さん／真純さん／瑞希ちゃん／雫ちゃん



もともとテントキャンパーだった井上さんが初めてのキャンピングカーを購入したのは、今から約7年前のこと。仕事の休みが不規則で遊びの予定を立てづらいことが悩みだった井上さんは、1人目の子供が生まれたタイミングでキャンピングカーの購入を検討し始めたという。その理由は、「子供を連れて安心して遊びに行ける」「突然の休みでも思い立ったらすぐに出かけられる」というキャンピングカーのメリットに魅力を感じたからだ。

初めて購入したキャンピングカーは、都市部に多い自走式の立体駐車場にも入庫できるポップアップルーフ仕様のバンコン。実用性と居住性を両立したポップアップルーフの恩恵を生かし、くるま旅やキャンプはもちろん、子供たちの送迎や買い物まで、1台ですべての用途をこなしていた。そして、愛車のバンコンをマルチに使い込むことで、ますますキャンピングカーの魅力にはまった井上さんは、子供の成長と共にバンコンからキャブコンへの乗り替えを決意。居住性と快適装備の充実度を考慮して、今から3年前に現在のキャブコンを購入した。

乗り替えにあたってこだわったのは、5×2mのボディサイズ。自宅の車庫に駐車でき、どこでもストレスなく走れて出先でも駐車場に困らない、日本の道路事情にピッタリのサイズだ。愛犬と共に旅するのが前提のため、安心して愛犬を車内で留守番させられるようにサブバッテリーで稼働する家庭用エアコンにもこだわった。ほかに、シート生地を毛が付きにくく掃除しやすいレザーに変更したり、エントランスの横にリード固定用のフックを装着したりと、細部の変更で自分の使い方に合ったキャンピングカーへと仕上げた。

キャブコンが納車されて以来、広々とした室内空間と高い断熱性能、装備の充実度に家族全員が大満足。子供たちにとっても、キャブコンの車内は秘密基地のようにワクワクする空間だ。仕事が休みの時は、家族と一緒に大型遊具やアスレチックのある公園に出かけるのがポピュラーな過ごし方だが、家族や仲間とオートキャンプを楽しむことも多い。キャンプに行った時は、「テント時代と比べて設営・撤収がラク」というキャンピングカーのメリットを改めて

実感するそうだ。

また2年前の夏には、バンコン時代からずっと夢見ていた北海道でのくるま旅を実現。青森まで自走してフェリーで函館に渡り、トータル9日間の日程で函館～ニセコ～小樽～旭川～稚内～美深～名寄～士別～美瑛～富良野～苫小牧を巡る旅をした。短期間ながらも、走行距離は約2300km。日本最北端の宗谷岬、旭山動物園などの観光地だけではなく、念願だった北海道でのキャンブも体験することができた。ほかに、スキーやラフティング、ハイキングなどのアウトドアアクティビティにもキャンピングカーを積極的に活用。ある年には、お出かけ中にケーキヤローストチキン、シチュー、ミニツリー、サンタの帽子を用意して、キャンピングカーの車内でクリスマスパーティーを楽しんだことも。

「ちょっとした休みでも、予定を立てずに自由な旅ができるのがキャンピングカーの魅力ですね」と井上さん。子供たちと過ごす時間をより充実させ、家族の絆を深めてくれるキャンピングカーは、ファミリーユーザーにとって最高のツールなのだ。

家族のキャンピングカーには、
姉妹にも、ワンちゃんにも、居心地の良い場所がある。

「うちのキャンピングカーの
秘密基地だよー！」



バンクベッドは子供たちにとって「秘密基地」のようなお気に入りの場所。



家庭用エアコンが搭載されているので、
愛犬を車内で留守番させるのも安心。



リア常設2段ベッドの端に犬用ケージを設置。
愛犬が落ち着ける場所を作った。



シート生地を愛犬の毛が付きにくいレザー素材に変更。
掃除もしやすい。



来たぞ！
憧れの北海道！



キャンピングカーで家族との時間が充実！

子供2人と愛犬を連れて気軽に遊びに行けるのが、キャンピングカーの魅力。おかげで、公園遊びやキャンプ、スキー、ラフティングなど、アウトドアレジャーを楽しむ機会も増えた。2年前の夏には、家族そろって念願の北海道くるま旅も実現！



7頭の愛犬と一緒に楽しむ キャンピングカーライフ!

CASE. 3 夫婦+愛犬×バンコン

上野徳康さん／久美子さん



サイドオーニングの下に折り畳み式の大型ケージを設置するのが定番のスタイル。

オーナーの上野夫妻は、愛犬7頭と共に充実したキャンピングカーライフを送っている。もともとバンコンを購入しようと思いついたキッカケは、ドッグショーへ行くのに不便を感じたから。以前はミニバンに乗っていたが、多い時で年間40~50回は全国各地のドッグショーに出かけていたという。しかし、ミニバンでは車内が狭く、車中泊も快適とは言いがたい。そこで、広大な車内空間を持つハイエース・スーパーロングベースのバンコンを購入することを決意。たまたまホームページで見つけた車両をすぐにお店まで見に行き、その場で契約してしまったというから、その行動力にも驚きだ。

愛車のバンコンは車内が広くて断熱性に優れ、しかも4WDなので冬場でも安心してドライブできる。おかげで、愛犬との旅が

ミニバンとは比べ物にならないほど快適になったそうだ。フロントに愛犬がくつろげる自作のセンターコンソールを設置したり、常設2段ベッドの下段にペットシートを敷き詰めてトイレスペースにしたりと、車内には7頭の愛犬と快適に過ごすためのさまざまな工夫が凝らされている。

何より「思い立ったらすぐ、愛犬と一緒にどこへでも出かけられる」のが、車内で生活・就寝できるキャンピングカーならではのメリット。キャンピングカーのおかげで遠方のドッグショーへも快適に出かけられるようになったほか、キャンピングカー仲間とのオフ会に参加したり、気ままに行きたい場所に出かけてその土地の美味しいものを味わったりと、愛犬と共に今まで以上にアクティブな休日を満喫しているそうだ。



リアのマルチルームは、ケージやキャンプ道具の積載スペースとして活用。



愛犬のためにベニヤ板とビニールレザーで自作したセンターコンソール。



2段ベッドの下段は、ベニヤ板とペットシートを敷き詰めてトイレスペースに。

RVパークとは、キャンピングカーオーナーや車中泊ファンの皆さまに、『快適に安心して車中泊ができる場所』を提供するために日本RV協会が推進しているシステムです。基本的には、駐車場での車中泊を公認されたものとお考えください。有料ではありますが電源設備なども完備されています。しかし、いわゆるキャンプ場ではありませんので車外での調理等は出来ません。

快適な旅を
応援する

RVパーク 6つの特徴

- ✓ ゆったりとした駐車スペースで、1週間くらいの滞在が可能。
- ✓ 24時間利用可能なトイレがある。
- ✓ 100V電源が使用可能。
- ✓ 入浴施設が近隣にあるか、あるいはシャワー設備が整っている。
- ✓ ゴミ処理が可能。
- ✓ 入退場制限がゆるやかで、多くが予約なしでも利用できる。

※ただし、各施設ごとに異なる料金設定やルールがありますので注意してください。



RVパークを利用して くるま旅や車中泊を安心快適に!!



全国の道の駅をはじめ、日帰り温泉施設、オートキャンプ場などとの連携で、今後日本各地に続々オープン予定です。

ここでは、最近オープンした(2016年12月1日現在)4カ所のRVパークをご紹介します。

あなたの新しい気軽な旅のスタイルとしてRVパークをぜひご利用ください。

なお、詳しい利用方法や全国のRVパークのリストは <http://kurumatabi.com/rvpark> を参照してください。

栃木県那須塩原市 RVパーク 那須塩原エヅリン

矢板インター、または西那須野塩原インター近く、那須高原、塩原など自然いっぱいに囲まれた場所に立地しています。駐車場すぐ隣では、ルアー&フィッシングやバーベキューができ、家族で楽しめます。本格的なお望みの方にはプレミアムヤシオマスも用意しております。近隣周辺にある美味しいお店も紹介しております。RVパーク周辺の自

然を楽しんでいただくのもよし、お食事どころに行くのもよしと楽しんでいただきたく、貸自転車も用意しております。また、バッテリー、不用品粗大ゴミ、家電リサイクル回収もしております。RVパーク那須塩原エヅリンで気分につっこり! ゴミをスッキリ! お客様の思い出と笑顔が増えるよう努力してまいります。



Data

〒329-2732 栃木県那須塩原市一区町281-191
☎ 0287-47-5671
<http://www.ezurin.co.jp>

- 利用期間：通年
- 利用料金：1泊 2,000円/1台(トレーラー含む)
- 利用可能台数：5台 ※RVパーク(5台)とは別に、電源なしの車中泊サイト(7台)もある。
- 利用可能期間：○チェックイン 当日15:00~ ○チェックアウト 翌日11:00
- 予約：予約について1日前までに予約 ※空きがあれば当日12:00まで受け付け可
- ペット連れ：可 ※「ペットをお連れの場合のルール」をお守りください。
- 設備：
 - トイレ・シャワー24時間利用可能 ※シャワー15分300円
 - ゴミ処理対応/可(無料)
 - 電源の有無/あり 500円/晩 ※RVパークで電源使用の場合
 - 発電機の使用/可能(時間指定あり)



大田原温泉ホテル龍城苑 太陽の湯

〒324-0062
栃木県大田原市中田原593-3 ☎0287-24-2525
<http://www.ohatawara-onsen.com/taiyo/index.html>

RVパーク
からの距離
約7.5km

- 入浴料金：大人 平日:600円/土日祝:700円 子供 300円
- 営業時間：10:00~22:00(最終入館受付21:15まで)
- 定休日：不定休

RVパーク那須塩原エヅリンをご利用の方は、500円で大田原温泉チケットの入浴券を販売いたします。

青森県三戸郡階上町 RVパーク みちのくはしかみ

国立公園・種差海岸隣接圏内にあり、東北自動車道・八戸南ICからクルマで約5分。敷地内にカスタムセレクト青森(認証板金・整備工場)があり、車両のメンテナンス・修理が可能。同敷地入口にセコムのカメラ2台設置。洗車スペース(高圧洗浄機あり・要予約)、エアカプラー(最大8キロ・夜間使用不可)があります。当地域までの長距離移動、

北海道への移動前後のメンテナンスや充電・給水・排水処理・洗車・お体の休養のためにお気軽にご利用ください。隣接・近隣に家屋などはありませんので、夜間も静かにお過ごしいただけます。入場後の万が一の短時間の外出は、場内事故防止のため、代車の用意も

Wi-Fiの設備準備も行っております。

- 利用料金：1泊 1,620円/1台(トレーラー含む)
- 利用可能台数：6台
- 利用可能期間：通年 ※冬休みを除く
- チェックイン 当日18:00～
- チェックアウト 翌日特になし ※時間外も対応可能
- 予約：当日までに予約
- ペット連れ：可 ※「ペットをお連れの場合のルール」をお守りください。
- 設備：○ウォシュレット・温水洗面台(シャワー付き)24時間利用可能
- ダンプスペース、別口でブラックタンクからの排水設備あり(無料)。
- ゴミ処理対応/可(有料) 540円 ※トイレ・ゴミの処理に誓約あり。
- 電源の有無/あり 540円 ※ルームエアコン搭載車は1,080円
- 発電機の使用/不可



Data

〒031-0813 青森県三戸郡階上町道仏字笹畑53-15
☎ 090-1064-9980
<http://www.custom-select.com/aomori>



湊高台温泉 帆のかおり

〒324-0062 青森県八戸市新井田字松山下野場7-31
☎ 0178-25-6415 <http://www.honokaori.jp>

■ 入浴料金：大人 400円 小学生 150円 幼児 60円 ■ 営業時間：6:00～22:00

RVパークからの距離
約10km

岡山県総社市 RVパーク 農マル園芸吉備路農園

イチゴ狩り、ブルーベリー狩り、石窯を使ったピザ焼き体験ができる総合観光農園。新鮮野菜・果物が毎日入荷する農産物直売所、既設の花を楽しめる花卉の販売施設、フルーツいっぱいのソフトクリームが人気のカフェ、地元野菜を使ったランチやお弁当を提供するキッチン併設しています。ドッ

グラン、子供広場、ミニ動物園などもあり家族で1日楽しめる岡山のお出かけスポットです。周辺には備中国分寺、鬼ノ城、作山古墳、吉備津神社といった歴史とロマンあふれる名所が点在し、倉敷美観地区や大原美術館へのアクセスも30分と岡山県南の観光拠点としてもご利用ください。

- 利用料金：1泊 2,000円/1台(トレーラー含む)※途中出入り可
- 利用可能台数：4台
- 利用可能期間：通年 ※1月1日のみ休園日
- チェックイン 当日12:00～18:00
- チェックアウト 翌日12:00 ※早朝チェックアウトの方は鍵を返却ボックスへ入れてください。
- 予約：当日 17:00までに予約
- ペット連れ：可 ※「ペットをお連れの場合のルール」をお守りください。 ※農産物直売所/キッチン/カフェ/飲食スペース/ピザ体験工房への連れ込み禁止。 ※ドッグランは400円で90分間の利用が可能。上記以外のスペースへはペット同伴可能。
- 設備：○トイレ・洗面所24時間利用可能
- ゴミ処理対応/可(無料) ※燃えるごみ/ペットボトル/ビン/カンの4つに分別。
- 電源の有無/あり ※施設利用料に含まれます。 ※電源利用がない場合は500円引き。 ○発電機の使用/可能(時間指定なし)



国民宿舎サンロード吉備路

〒719-1124 岡山県総社市三須825-1
☎ 0866-90-0550 <http://www.sunroad-kibiji.com>

■ 入浴料金：大人 610円 小学生 300円

■ 営業時間：11:00～21:00 (最終受付 20:30)

※水曜日は15:00～。水曜日が祝日の場合11:00～、翌日木曜日が15:00～。

RVパークからの距離
約4.0km

福島県南会津町 RVパーク だいくら

食事がうまい! ビール飲み放題! 食事を楽しんで得した気分になれる。美味しい料理と快適な静けさ。国道から500m、森を隔てているためクルマの音もなく静かなRVパーク。夏の夜でも寝苦しさはなく、ちょっと寒いくらいの標高860m。

初穀で炊くかまどご飯、スモークオーブン

が主体の肉料理、朝食は自家製ベーコンやビール酵母を使ったアツアツ焼きたてパン。会津地域100農家から集まる新鮮野菜を使った料理。山形への道中、北海道へのアクセスのための新潟フェリー使用時の前泊や、家に帰る前に充電がてらうまいものを食べて、ゆっくり帰宅できる距離です。

- 利用料金：1泊 1,000円/1台
- 利用可能台数：2台
- 利用可能期間：通年
- チェックイン 当日15:00～
- チェックアウト 翌日10:00 ※上記時間以外でも対応可能な場合もございます。
- 予約：2日前までに予約 ※お食事される方優先(夕食4,000円 朝食1,500円)
- ペット連れ：可 ※「ペットをお連れの場合のルール」をお守りください。
- 設備：○トイレ・洗面所24時間利用可能。
- ゴミ処理対応/可(有料) ※指定のゴミ袋1枚につき300円。
- 電源の有無/あり ※利用料 300円。
- 発電機の使用/不可



Data

〒967-0026
福島県南会津郡南会津町針生字昼滝山857-27
☎ 0241-64-2355
<http://www.aizurokumeikan.jp>



会津六名館

〒967-0026 福島県南会津郡南会津町針生字昼滝山857-27
☎ 0241-64-2355 <http://www.aizurokumeikan.jp>

■ 入浴料金：500円

■ 営業時間：16:00～22:00

■ 定休日：不定休 ※入館状況により休業の場合あり。

RVパークに併設

趣味の可能性を広げるキャンピングカーの魅力！



趣味のレース観戦のために 軽キャンパーを購入！

CASE. 4 F1観戦×軽キャンパー

高橋久雄さん／仁美さん

高橋さんの趣味は、鈴鹿サーキットでのレース観戦。国内開催のF1観戦の際、鈴鹿サーキットのオートキャンプ場を利用してF1ウィークとことん満喫できるように、キャンピングカーの購入を決意したという。そんな鈴木さんの愛車は、軽トラックベースのトラキャン。小回りが利くため道を選ばず走れ、出先で駐車場に困ることもない。そうした軽キャンパーの利点を生かし、レース観戦のほかに長距離のくるま旅や普段の買い物などにも愛車をフル活用している。ベース車両に、「軽トラのF1」の異名を持つ縦置きミッドシップレイアウトのホンダ・アクティをチョイスしたのも、レース観戦が趣味の高橋さんらしいこだわりだ。

愛車のバンコンは天体撮影のベース基地！

CASE. 5 天体写真×バンコン

大谷英樹さん

ハイエースベースのバンコンを活用して、趣味の天体撮影を楽しんでいる大谷さん。天体撮影では、カメラやレンズのほかに三脚、コンパクト赤道儀、ヘッドランプ、防寒グッズなどさまざまな機材や道具が必要になるが、バンコンの積載性を生かせばすべてスッキリと収納できる。美しい星空を求めて、長野の高原や富士山周辺、岐阜や新潟、時には青森まで遠征。撮影は深夜まで及ぶが、撮影後に車内のベッドでゆったりと就寝できるのが一番の魅力だとか。翌朝、地元の温泉施設で朝風呂に浸かるのも楽しみのひとつ。長距離を移動することが多いため、走行性能と乗り心地に優れたバンコンにこだわったそうだ。



花火大会行脚と打ち上げ基地に キャブコンを活用！

CASE. 6 花火×キャブコン

相馬 功さん

花火師の資格を持つ相馬さんは、キャブコンを「花火のため」に購入したという。秋田・大曲、新潟・片貝&長岡、茨城・土浦など、各地の花火大会鑑賞に出かける際は、愛車のキャブコンを宿代わりに使用。自身が立ち上げた花火打ち上げ団体「疾風迅雷組」でプライベート花火大会を開催する際にも、機材を運搬したり、車内で仕込みをしたり、大会本部代わりに使用したりと、車内空間の広いキャブコンの利点をフルに生かしている。花火大会で撮影した映像を鑑賞するために、ダイネットにはプロジェクターも設置。相馬さんにとってキャンピングカーは、趣味の花火を充実させるために欠かせないツールなのだ。



01 マナーを守って快適なくるま旅を！ 日本RV協会では公共駐車場での「マナー10カ条」を設定しています

キャンピングカーはそのスタイリングからどこにいても目立つクルマといえます。だからこそマナーは人一倍守らなければなりません。キャンピングカーユーザーの増加に伴って、一部の心ないユーザーのマナー違

反がニュースにもなり、道の駅や公共の駐車スペースから締め出されるという事態も発生しています。日本RV協会では公共駐車場でのマナー10カ条を設定して、キャンピングカーユーザーにマナー厳守をお願いして

います。キャンピングカーを上手に楽しくくるま旅をするためには、まずはマナーを守ることが基本です。

マナーを守ってみんなで快適で楽しいくるま旅を！

1. 長期滞在を行わない



道の駅や高速道路のSA・PAなどは宿泊施設ではないので、そこにおける休息は、必要最小限の仮眠にとどめ、連泊・長期滞在を行わないようにしましょう。また、キャンピングトレーラーを公共の駐車場に放置して、むやみにヘッドのみで遠出をするようなことは避けましょう。

2. ゴミの不当投棄はしない



旅行中や移動中に発生した生活ゴミは、ゴミ箱があっても投棄することはやめましょう。また食器などは使い捨てのモノは避け、基本的にゴミは持ち帰ることを心がけましょう。

3. 発電機の使用には注意を払う



公共駐車場における発電機の使用は、時と場合を十分に考慮し、他の利用客が休息している時や近所に民家があるような場所では、使用しないようにしましょう。

4. キャンプ行為は行わない



道の駅やSA・PAなどでは、たとえ短時間の休息であっても、オーニングを広げたり、椅子・テーブル・コンロなどを車外に持ち出して、キャンプ場のように利用することはやめましょう。また、周囲に配慮し、特に早朝・夜間の大きな話し声や生活音に注意しましょう。

5. グレータンクの排水は行わない



生活排水用のグレータンクの処理も、その場で垂れ流したり、側溝に流したりしないように心がけましょう。また、施設に許可なく給水することはやめましょう。

6. オフ会の待ち合わせは慎重に



オフ会やクラブミーティングで公共駐車場に集合する場合は、他の利用客から駐車場を占拠して騒いでいると誤解されないように振る舞いましょう。

7. 許可なく公共の電源を使用しない



許可なく公共の電源にキャンピングカーを接続し、その電源を利用することはやめましょう。

8. トイレ処理は控える



公共駐車場では、カセットトイレやポータブルトイレの処理は控えましょう。

9. 車椅子マークの所に駐車しない



道の駅や高速道路のSA・PAにある車椅子マークの駐車スペースには、健常者のみが乗車している場合は駐車しないようにしましょう。

10. 無駄なアイドリングをしない



無駄なアイドリングによる排気ガスの流出や騒音は、大気汚染や地球温暖化にも悪影響をもたらすので、エンジンストップを心がけ、ECOドライブを行いましょう。

02 JRVA × 震災支援 災害時にも役立つキャンピングカーの特性を生かした復興支援活動を展開

日本RV協会では、キャンピングカーを使って積極的に震災支援活動を展開しています。東日本大震災の際には、災害に遭われた方々に本当に必要な支援は継続的な支援であることを痛感し、震災地域で活動するボランティアの方々にキャンピングカーを長期間貸し出したり、無償で譲渡したりしました。

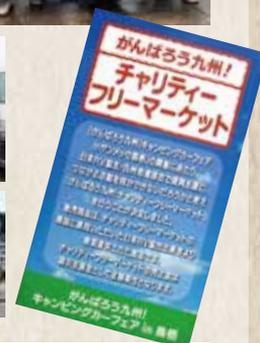
今回の熊本地震においても支援を必要とするボランティア団体にキャンピングカーを提供するべく、会員事業者に貸与または譲渡可能な車両を募集しました。そして地元復興に尽力している「九州自然学校協議会(RQ九州)」に譲渡可能な車両2台を贈呈しました。

この「九州自然学校協議会(RQ九州)」は熊本が本拠地であり、廃校を利用した自然学

校やフットパス、キャンプ場の管理団体です。今回の熊本地震を機に「RQ(レスキュー)九州」を立ち上げ、自らが管理している自然学校等を拠点としてボランティア団体の管理受け皿になり、日々活動しています。

また、「一般社団法人やまと災害ボランティアネットワーク」へもキャンピングトレーラーを貸し出しています。このキャンピングトレーラーは、東海大学の学生に、倒壊した学生寮の代わりに一時的な宿舎として利用してもらうほか、学生寮の復旧作業等に協力しているボランティアの方々も使用しています。

このように、日本RV協会は、災害時にも活躍できるというキャンピングカーの特性を生かして、東日本大震災や熊本地震においても、積極的に復興支援活動を展開しています。



03 気になるアンケート調査 キャンピングカーユーザーの旅行中の食事について

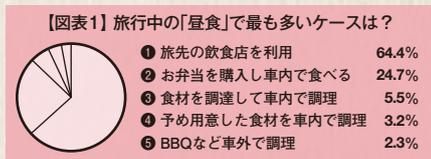


旅行先では飲食店で外食するケースが主流 ~旅行先で調達した食材で自炊を楽しむユーザーも~

日本RV協会では、日々キャンピングカーユーザーにさまざまな事象についてアンケート調査を行っています。今回は、キャンピングカーユーザーが旅行先でどのような食事を楽しんでいるかを調査した結果を見てみることにしました。

キャンピングカーユーザーは基本的に外食派

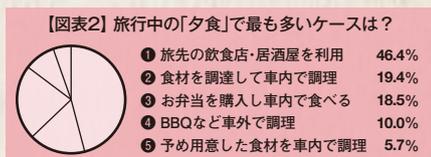
この調査は、2016年2月18日から3月17日にかけて、日本RV協会のホームページに寄せられた約220人のユーザーアンケートを集計したのですが、キャンピングカー旅行中の食事について、まず「昼食」の場合は、64.4%のユーザーが「旅先の飲食店を利用した外食」と答えました。その次が、「旅先でお弁当等を購入し、車内で食べる」(24.7%)というもので、食材を調達して車内で調理するという回答は1桁にとどまるものとなりました。(図表1)



また「夕食」においても同様の傾向が見られ、トップを飾った回答は、「旅先の飲食店、居酒屋を利用した外食」というものであり、その比率は全体の半数に近い46.4%に達しました。

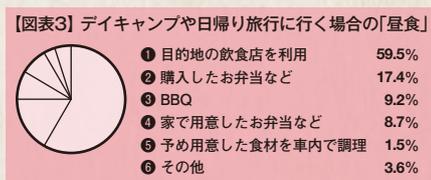
ただ、夕食の場合は、車内で食事を摂る人たちの数は昼食よりは増えて、「旅先で食材を調達して車内で調理する」というユーザーが19.4%、「お弁当を購入して車内で食べる」という人が18.5%を数え、居住性に優れたキャンピングカーならではの過ごし方を楽しんでいるユーザーが増える傾向が浮き彫りになりました。

また車外で夕食を楽しむ方法の一つとして、キャンプ場等を利用し、バーベキューのような煙の出る食事を楽しんでいる人々が10.0%いることも判明しました。(図表2)



以上の回答は、基本的に1泊以上の車中泊を前提とした調査ですが、デイキャンプのような日帰り旅行の場合も、だいたい似たような傾向であることがわかりました。

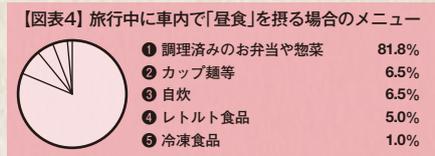
キャンピングカーをデイキャンプ、日帰り温泉等を使う場合も、やはり昼食の場合は外食が主流となり、「目的地近くの飲食店を利用した外食」(59.5%)という回答が1位。2番手は「お弁当やファーストフードのテイクアウト」(17.4%)となりました。(図表3)



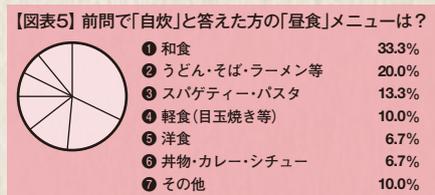
夕食は車内でゆっくり楽しむスタイルが人気

一方、車中泊を前提としたキャンピングカーの旅行中に車内で食事を摂るときは、具体的にどのようなメニューが多いのでしょうか。これも、昼食と夕食に分けて尋ねてみました。

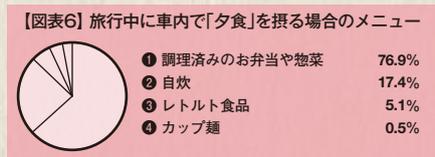
まず、昼食の場合は、「調理済みの総菜(含むお弁当)」という回答が81.1%と圧倒的な回答率を占めて1番目に上がりました。その他の回答としては、「カップ麺等」、「レトルト食品」等という回答も上がりましたが、いずれも5~6%台の回答率にとどまりました。(図表4)



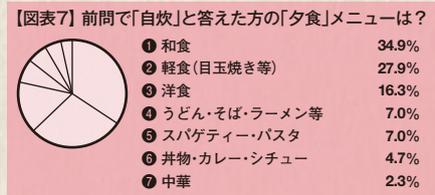
また「自炊」という答えも6.5%ほどの回答率を獲得し、その具体的なメニューとして「和食」(33.3%)、「うどん・そば・ラーメン等」(20.0%)、「スパゲティー・パスタ」(13.3%)、「目玉焼き、ハムエッグ等の軽食」(10.0%)等という回答が並びました。(図表5)



それでは、車内で夕食を摂る場合はどうでしょうか。ここでも、「調理済みの総菜」という答えが76.9%という圧倒的な回答率を占めて1位になりました。しかし、昼食のときとは異なり、2番目は「自炊」という回答が17.4%を集めて浮上しています。(図表6)



ちなみに、自炊メニューとしては「和食」(34.9%)、「目玉焼き・ハムエッグ等の軽食」(27.9%)、「洋食」(16.3%)という回答が並び、昼食時よりは、時間をかけて本格的な調理を行うという傾向が読み取れます。(図表7)



これは次の設問において、「キャンピングカー旅行で車中泊する際に、夕食時においてはお酒を飲まれることがあるか?」という調査と関係しているかもしれません。

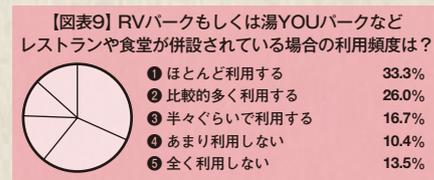
この設問では、57.8%のユーザーが「ほとんど酒を飲む」と答えています。これに「飲むか飲まないかは半々ぐらい」(9.3%)、「3回に2回程度の割合で飲む」(5.4%)という回答を合わせると、全体の72.5%の人が、車中泊する際には、車内でお酒を飲みながら夕食

を楽しんでいる状況が浮かんできました。(図表8)
※クルマを運転しないことが前提となっています。



また、本調査では、当協会が取り組んでいる「RVパーク」および「湯YOUパーク」等でレストラン・食堂が併設されている場合の利用頻度も調べてみました。

それによると、「レストラン・食堂があれば、ほとんど利用する」と答えた人は33.3%。以下、「比較的多く利用する」(26.0%)、「半々ぐらい利用する」(16.7%)という回答が続き、合わせて76.0%のユーザーがRVパークや湯YOUパークの食事施設を利用していることが分りました。(図表9)



調査結果のまとめ

~キャンピングカーならではの多様な食事形態を楽しむユーザーが急増中~

キャンピングカー旅行という、かつてはキャンプ場等に泊り、バーベキュー等の野外料理を楽しむというイメージが一般的だったかもしれません。しかし、近年は旅行形態や旅の目的も多様化し、従来のキャンプ場泊に加え、RVパーク・湯YOUパークといったキャンピングカーならではの新しい宿泊施設も増え、それに伴って旅行中の食事スタイルも大きく変化してきたことが今回の調査で浮かび上がりました。

具体的には、外食の比率が高まってきているところに注目してよいでしょう。これは日本全国におけるファミリーレストランやファーストフード店等の普及、キャンピングカーユーザーに人気の食堂等を併設した立ち寄り湯の普及、そのほか一般の道の駅、高速道路のSA・PA等、外食を楽しめる場所の質的・量的拡大が、その背景にあると考えてよいでしょう。

また、外食に依存する率が非常に高くなってきた一方、旅行先で仕入れた食材や惣菜を調理して車内で食事を摂るケースもしっかりレポートされています。

やはり、キャンピングカーの強みは、普通乗用車にはないキッチン機能を有していることです。たとえ簡易的なコンロ(時には電子レンジ)や水道であったとしても、買って来た惣菜に車内で手を加えることは乗用車よりもはるかに容易であることはいうまでもありません。このようなキャンピングカーならではのキッチン機能を利用し、広いテーブルや座りやすいシートを使って、ゆっくりくつろいで夕食を摂るといふユーザーも多いようです。

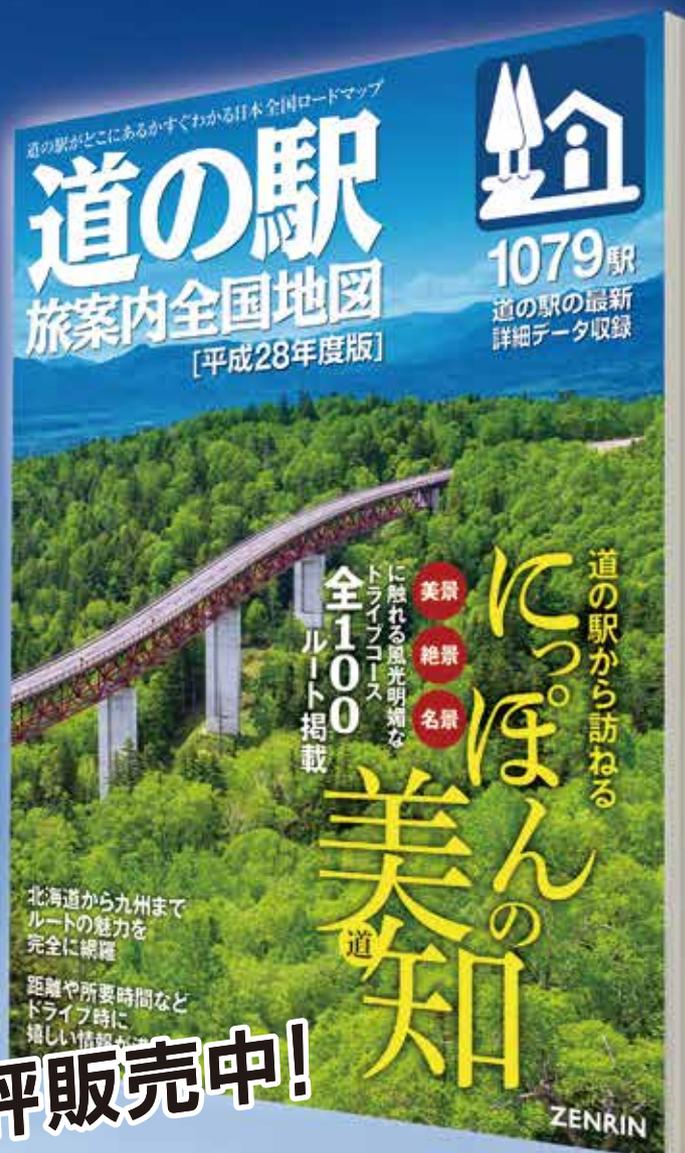
外食から、本格的な車内調理まで。グルメブームを念頭に置きながら、さまざまな食事形態を楽しめるように。キャンピングカーの魅力があるといえるでしょう。

道の駅がどこにあるか
すぐわかる
日本全国ロードマップ

道の駅 旅案内全国地図

[平成28年度版]

全国1079カ所の「道の駅」と、その周辺の観光・娯楽施設などドライブやツーリングに役立つ情報が盛りだくさん。平成28年度版は、美しい風景に出会えるコースを紹介。



インターネット ゼンリン公式オンラインショップ または **ZENRIN Store** お近くの書店・道の駅にて **好評販売中!**

ゼンリン 道の駅 検索 定価 1,100円+税

平成29年度版 **2017年3月上旬発売予定!**

ロードマップ付きフリーマガジン

道の駅 旅案内

北海道・北陸・関東・中部・近畿・中国・四国・九州の道の駅で絶賛配布中のフリーマガジンです。各エリアのロードマップと道の駅情報に加え、季節のイベントや観光情報をご紹介します。全国に広がるフリーマガジン「道の駅」旅案内にご期待ください。

※年1~4回発行(エリアによって異なります)

